

北國の冬の幼稚園

青森幼稚園

今

五

よ

是れと同じやうな題目の下に大正四年丁度二十一年前當時の「婦人ミ子」に執筆したことがありますが、御折角の御申越故重ねて申上ぐることに致します。

年々に来る冬であります、幾日もく／＼ブウ／＼吹雪の續く事を考ふれば、生れた土地でさへ不足を言ふ事がありますが、併し何にしても郷土は大切であり又なつかしいものであります。而して大自然に従ひあらゆる工夫をこらしてこそ住め都々申す諺に當てはまるのであります。併し近年の詞に自然を征服する等々言つたりしますが、自然を征服してさうなる事でせう。それこそ大變なことになる言語同断なことであります。自然を利用し自然に則つて生活せねばならぬのであります。

さてそれについて私の幼稚園として居る事の二、三につき申述ぶることに致します。

一、幼児迎送車

この事は仙臺の大倉で略々申し上げました。我が幼稚園の幼児迎送車は大正二年(今から二十六年前)から始めたの

であります、雪國の幼稚園は冬季に於て殊更必要でありますのに、通園困難の爲園児の多數は約五ヶ月間も休園するので、よき方法もなきかゝ種々研究の結果考案したもので、男人一人で十人以上十五六名を乗せる手俵であります。初めは大八荷物で試みましたが次第に改良して今は稍々立派なものになりました。昨年からはリヤカーを利用した小型のもの即ち七八人を乗すべきものをも造りましたが、冬は箱丈けを構に移すのであります。

初めの計劃は冬季のみを豫想しましたが、家庭からは極めて重寶がられ、遂に年中繼續する事となり、今日に及びました。即ち往復附添人を要する幼児は甚だ手が省け、又弱き子、遠方からも通園が出来誠に便宜だに歡ばれ其當時は當園の專賣特許だにやされました。今は地方の名物となり又此の施設は世界にもないこの事であり、曳手は他の内職を兼ねる者を雇ひ、一人の幼児の家庭から一ヶ月金壹圓の車賃を申受けて賃金に致して居ります。

右の施設は通園歩行困難の幼児の爲を目的としたのであ

りましたが、更にもう一つ大いなる目的にも叶ふことゝ思ひます。即ち都市に於て理想の幼稚園敷地を得られぬ場合郊外をトしてしつらへ而して右の方法によつて幼児を迎送するのよき方法を考へます。

幼稚園は幼児の生活を営む場所であり、人生一生の人格の養素を造る所であります。出來得るだけ豊富な設備を方法を要すべきであります。然かも聖戦下の幼稚園は其將來を想ひ尤も考慮を要すべきに信じます。

室内生活は他の地方と大差ありません。

二、雪の生活と遊具について

十二月から三月末迄は積り積つた雪は地を埋め幼児の世界でも門外遊は雪の外何物もありません。しかも屋上の雪は時々下ろさねばならず、其の爲めに軒下は高く積りて屋上も地上と同じくなり、所によりては屋上よりも高い所もあります。物凄くさも壯觀さも言へませう。さて子供はこ見れば暖國から轉住して、親御は其寒さに心配して居つたのが寒國に來て却つて丈夫になります。チラ／＼降り初めますと何の子も／＼病弱でない限り喜んで外に出て服裝の濡るゝも手の凍える事も厭ひませんことは、何れ地方の子供も同じ事です。積り積つた雪上の遊びに、少し晴れたる日は屋上に上つてダルマを造つたり滑つたり、ダイバを造つたり、ザンゴウを掘つたり、それは／＼種々雑多、數

年前ゴム長靴が出來てからは、みんな雪でも物好きさうに泳ぎ歩きまわります。但し事變下の今日ゴム靴は統制されたるにより地方で出來る藁長靴を用ゐる事です。子供の心理には敬服します、大人が寒いと小言を云ふ時も自然に服従して樂天です。世の母サン達の中には「此の寒いのに外に出て馬鹿だ、家にだまつて炬燵で暖まつて居ればいいのに」よく聞くことありますが、子供がそんなにしてゐてはさうして強く育ちませうか。雪合戦も致しますが、幼い子供の事ですから、固いつぶてが面部に當つてはたまらなく痛さを覺えますし、満足に雪合戦は出來せんから鐵板で紅白の人形を造りて的をなし、つぶての當つた方は頭は落ちる仕掛けをしましたのを用ゐますから、まことに都合がよく、喜で出來ます。又雪遊を以て砂場の遊びに適するものとし、テーブルを置くもよく篋箱砂さらひ等の砂場道具の外、陶器を以て型をこりてお菓子等を造る等も面白く、是等の遊ははるかに砂場以上範圍の廣い又大規模の活動が出來ます。又幼児は大人の體量の割合に比し大きな道具を要求しますが、それによつて體力を増すことゝなりませんから、小形の雪べら等ではつまらない故、鐵板のサーベルを用意しておきます。以上の雪遊は暖國に得られぬ興味があります。今聖戦下に於て國寶師團や聯隊さうたわれるに至つたのも意義ある事でないでせうか。